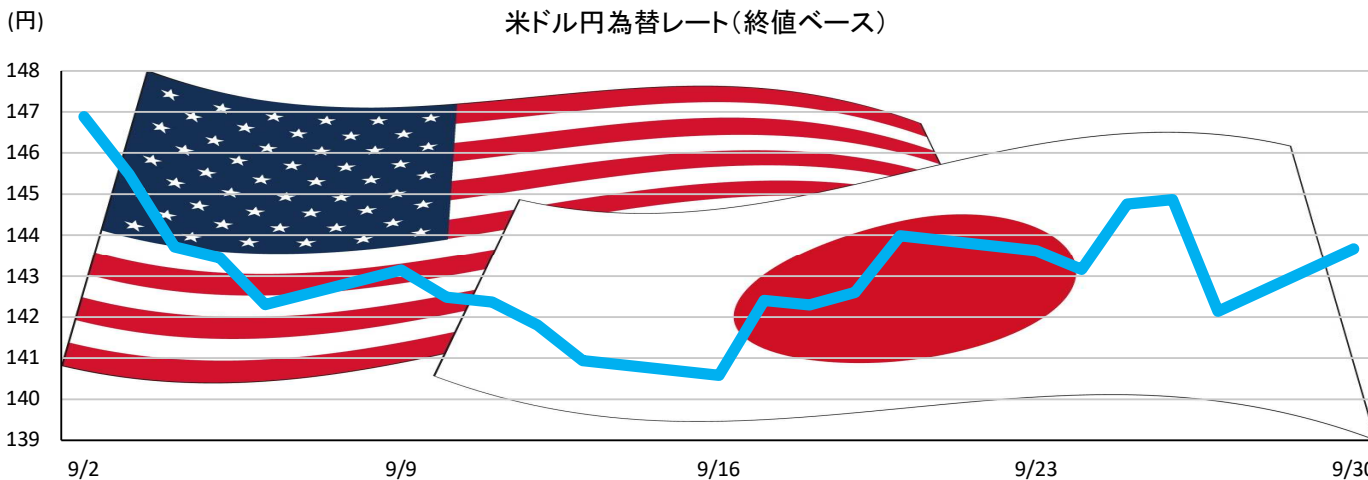


MONTHLY REPORT

先月の振り返り：9月のドル円相場は147円前半～139円半ばで推移。労働関連指標が軒並み市場予想を下回ったことで、米FOMCで大幅利下げ観測が再燃しドル安が進行。米消費者物価指数が市場予想を上回り一時ドルは買い戻されたが、田村日銀審議委員の適時かつ段階的に利上げが必要との発言や米WSJ紙で米FOMCで0.50%利下げの可能性が報じられたことで円高ドル安が進み、140円を割り込む場面も見られた。注目の米FOMCで0.50%利下げが発表されドル売りで反応したが、米パウエルFRB議長が利下げを急がない姿勢を示したことで一転してドル買い戻し。さらに日銀が金利据え置きを発表し、植田総裁も利上げに慎重な姿勢を示したことで円売りが強まった。月末の自民党総裁選で、財政拡大路線の高市氏優勢が伝わり円安株高が進んだが、決選投票で緊縮財政を掲げる石破氏が自民党新総裁に選ばれたことで、一転して大幅な円高株安となる大荒れの日となった。



MARKET REVIEW

食料自給率：日本は約6割の食料を輸入に頼っており、世界的な食料危機の影響を受けやすい国である。世界各地で頻発している自然災害や紛争、経済不安などが食料生産に悪影響を及ぼし、多くの国で食料不足が顕在化してきており、国際情勢などの影響で輸入ができなくなる恐れもある。国際価格高騰や円安の影響を受け食料の国産回帰の動きも見受けられるが、国内では農業従事者の高齢化や後継者不足、農業用地減少など様々な問題を抱えている。国際価格の変動や輸出国の政治的・経済的な不安定な面を考えると、国内の生産力強化を重点的に実施していくことが、食料自給率の向上につながり、日本の食料安全保障を支えることになるのではないだろうか。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
10 / 17 (木)	21 : 15	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆
10 / 30 (水)	21 : 30	US	米GDP速報値	☆☆☆☆
10 / 31 (木)	** : **	JP	日銀金融政策決定会合	☆☆☆☆
11 / 1 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
11 / 8 (金)	4 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
11 / 13 (水)	22 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
11 / 15 (金)	22 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレザンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。